



Date: 2011/05/26

ROBOT SAVE JAPAN リサーチプロジェクト

～ 20 世紀のロボットの終わり そして、21 世紀の再創造への復活 ～

ロボットビジネス関連のマーケティングサービスを robobakkon プロジェクトとして展開するテンプロクシー(本社:東京都世田谷区 代表取締役:武道誠芳)、ウェルコインターナショナル、並びにマーケティングテクノロジーの 3 社は、「ROBOT SAVE JAPAN」をキーコンセプトに、21 世紀に求められる新たなロボット像のリサーチプロジェクトを企画しました。

今回の原発問題では、国産のレスキューロボットに対する実用性について様々な問題点が提示されていますが、これはロボットに対する期待の裏返しでもあり、当リサーチプロジェクトでは、長年待望されながら未だ製品、サービスが具現化されない状況を直視し、ヒューマノイド型(二足歩行)ロボットに代表される従来のロボット像の存在意義を改めて問うことを通じて、21 世紀に必要とされるロボット像を明らかにすることを目的にしています。

当プロジェクトのフェーズ 1 のプレ(簡易)調査では、Facebook クエスチョンを利用した全く新しい調査手法を採用しており、調査への自由な参加による自発的な意見、記名回答による信頼性の確保を始め、他の参加者の回答への意見表明や賛同、シェアなどソーシャルメディアを使った調査の新しい可能性を指向する一方、随時回答状況を確認しつつ、必要に応じて設問の追加や変更、また、実施期間の延長等も柔軟に運用することで、従来の方式では得られなかった調査結果が期待されます。

調査の概要は以下の通りです。

● 調査概要

項目	概要
テーマ	20 世紀のロボットのおわり、そして、21 世紀の再創造への復活
調査仮説	<ul style="list-style-type: none">● 20 世紀のロボット像は、従来の進化の過程の中で創造されたモノであり、21 世紀が必要とする新しい進化にはロボットの再創造が必要● 21 世紀は、人の知的生産性を高め新しい進化を遂げる世紀であり、それを牽引するモノ、サービスがこの世紀に求められるロボットの存在意義● その意味で、人の労働支援を主目的とするヒューマノイド型(二足歩行)ロボット像の持つ用途開発の限界、閉塞感は、技術力不足ではなく、その価値は既に喪失
設問数	3～5 問 開始時は 3 設問
実施期間	1 ヶ月～2 ヶ月間
回答数	200～300 名程度(見込み)
Facebook	http://ja-jp.facebook.com/pages/robobakkon/141088582629263?sk=app_221460014534454



robobakkon では、当ブレ(簡易)調査の実施評価後、海外へも同様の調査、また、フェーズ2として、コンテスト等も計画しており、当リサーチプロジェクトを通じて得られた国内外の様々な調査結果を、ロボット製造企業の研究開発や行政の施策等へ役立てられる様、調査レポートとして発刊する予定です。



▶ robobakkon プロジェクト

テンプロクシー、ウェルコインターナショナル、マーケティングテクノロジーの3社が、robobakkon プロジェクト組織として民生用ロボットの市場創造を支援する様々なマーケティングサービスを展開しています。

21世紀のロボットを再創造する robobakkon のミッション

- 現在、そして未来に求められるロボットのコンセプトワークを通じた各種製品、サービスの再創造
- ロボット技術、製品、サービス、文化に関するマーケティングサービスの提供を通じてロボット市場の創出
- ロボット市場の創出による豊かな人と社会の実現

▶ お問い合わせ先(総合窓口)

株式会社ウェルコ インターナショナル

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 6-12-23 原宿山田ビル 6F

Tel. 03-6418-5519 Fax. 03-6418-5252

<http://www.robobakkon.jp> mail: info@robobakkon.jp

< 参考 >

21世紀のロボット仮説

いま、従来の進化のあり方を見つめ直し、新しい進化の道を模索、そして発見する時です。

私たちは、20世紀のロボット像は、従来の進化の過程の中で創造されたモノであり、21世紀が必要とする新しい進化にはロボットの再創造が必要と考えます。

人の労働生産性は、自動化、省力化、無人化、低コスト化を目的に、あらゆる製品、機器、産業にその進化が及んでいます。反面、人の知的生産性は、専門領域の細分化による思考の低下、情報量の加速度的な増大等により、必ずしも労働生産性ほどの成果を挙げておらず、一部では停滞、むしろ後退しています。

私たちは、21世紀は、人の知的生産性を高め新しい進化を遂げる世紀であり、それを牽引するモノ、サービスがこの世紀に求められるロボットの意義、存在価値だと考えます。

その意味では、人の労働支援を主目的とするヒューマノイド型(二足歩行)ロボット像の持つ用途開発の限界、閉塞感、技術力不足ではなく、その価値自身が喪失していることに真の要因があります。

生活、仕事の質の向上には、生産性を更に高め、良い製品、サービス、新しいコンセプトを創造する営みと、それを消費する上で様々な情報と知識をよりの確に処理し活用するという、両輪の更なる進化が必要不可欠です。

既に多くの産業は、成熟期、衰退期に直面しており、今後も需要の大きな増大が見込めない状況下、私たちは、新たな産業として潜在需要があるのは、人の知的分野であると考えます。